

製品安全データシート

1・製品等及び会社情報

化学物質等の名称（製品名）：次亜塩素酸ナトリウム 食品添加物殺菌料
(ニュウル) 有効塩素濃度 200ppm,

会社名：株式会社ハイミクス 住所：〒438-0812 磐田市海老塚 1043
担当者：水野 嘉則
電話番号：0538-31-8117 FAX：0538-38-9337
作成改定：2023年12月4日

2・危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性	金属腐食性物質	区分外
以外は現時点で「分類対象外」、「分類できない」： 「区分外」である。		
健康に対する有害性	皮膚腐食性・刺激性	分類できない
	重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷	分類できない
	特定標的臓器・全身毒性	分類できない
以外は現時点で「分類対象外」、「分類できない」： 「区分外」である。		
環境有害性	水生環境急性有害性	認められない
	水生環境慢性有害性	認められない
ラベル要素	定めない	
注意喚起語	定めない	
危険有害性情報	認められない	

注意書き[安全対策]

特になし。

[応急処置]

害なし。

[保管]

容器を密閉しておくこと。長期間使用しない場合は冷暗所での保管が望ましい。

[廃棄]

下水へ流す。

3・組成・成分情報

化学物質

次亜塩素酸ナトリウム (Sodium Hypochlorite) 水溶液

化学式 次亜塩素酸ナトリウム NaClO

官報公示整理番号 なし

危険有害成分 希釈された次亜塩素酸ナトリウム

4・応急措置

眼に入った場合：

問題はないが、気になる際には水道水で洗い流す。

皮膚に付着した場合：

特になし

吸入した場合：

特になし。

飲み込んだ場合：

特になし。

予想される急性症状及び遅発性症状：

吸入 なし

皮膚 なし

眼 なし

経口摂取 なし

最も重要な兆候及び症状：

なし

5・火災時の処置

消火剤： 本製品は不燃性である。

使用してはならない消火剤： 不明

消火方法： 特に定めない、本製品の内容成分は殆どが水である。

消防者の保護： 別に定めない。

特有の危険有害性： なし

6・漏出時の処置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急的措置：

水で薄める。

環境に対する注意事項：

河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。

水を用いて洗い流す。

回収、中和：

水で洗い流す。

封じ込め及び浄化の方法、機材：

漏れをとめる。

水で洗い流す。

少量の液体漏れ 水で薄めるが、河川、海洋に流れないような処置を講じる。

二次災害の防止策：

特になし

7・取り扱い及び保管上の注意

取り扱い上の注意：

技術的対策

特に定めない。

保管上の注意：

容器は密栓して、直射日光の当たらない場所で保管する。

局所排気、全体換気

特に定めない。

安全取り扱い事項

特に定めない。

接触回避

別に定めない。

保管

技術的対策 別に定めない。

接触危険物質

特になし。

保管条件

光、熱、空気、（二酸化炭素）により、徐々に有効塩素を失うので、容器は密閉して直射日光を避け冷暗所に保管する。

遮光した容器に入れること。

貯槽は樹脂製を使用する。

8・暴露防止及び保護措置

管理濃度： 未設定

許容濃度： 未設定 日本産衛学会（2007年版）、ACGIH（2007年版）

設備対策： 特に定めない

保護具： 特に定めない

9・物理的及び化学的性質

外観、形状： 無色透明な液体

臭気： 無臭

密度（比重）： 1.0

pH： 12.5 ± 0.5

引火点： 不燃性

発火点： 不燃性

爆発範囲： データなし

蒸気圧： データなし

自然発火温度： 不燃性

分解温度： データなし

蒸発温度： データなし

燃焼性： データなし

粘度： データなし

10・安定性及び反応性

安定性： 常温で安定している。

60°C以上の熱水に溶かすと分解しやすい。

危険有害反応可能性： なし

避けるべき条件： 日光、熱

混触危険物質： 酸類で分解する。

危険有害な分解生成物： なし

11・有害性情報

急性毒性 : 経口、マウス : 2000mg/kg 体重以上何れも区分外に該当する。
 経皮、ウサギ : LD₅₀ > 1000mg/kg (IUCL ID、2000) より
 区分外とした
 吸入 (蒸気)、ラット : LC₅₀ > 10.5 mg/L (IUCL ID、2000) のデータ
 があるが暴露時間が不明であるため分類できない。
 吸入 (ミスト) : データなし

皮膚腐食性・刺激性

ウサギを用いた試験 (OECD TG 404) において紅斑と浮腫の刺激性スコア (合
 計

8 点) は 2% 溶液が 1、2 であることから区分外。

重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷、区分外。

眼に対する重篤な損傷・刺激性

ウサギを用いた試験 (OECD TG 404) において紅斑と浮腫の刺激性スコア (合
 計

8 点) は 2% 溶液が 1、2 であることから区分外。

重篤な眼の損傷はない。

呼吸器感作性

情報なし

皮膚感作性

モルモットを用いた皮膚感作性試験では一部感作性を示したが、陰性の結果が
 多数を占めた (IUCL ID 2000)、分類できないとした。

生殖細胞変異原性

マウスの骨髄細胞を用いた染色体異常試験、異数性試験 (IARC 1991) におい
 て陰性、ラットを用いた小核試験で陰性の結果 (IUCL ID 2000) に基づき区分
 外とした。

発がん性

IARC がグループ 3 分類している事により区分外とした。

ラットを用いた 104 週間の経口投与試験 (飲水) (IARC 1991)、マウスに用
 いた 103 週間の経口投与試験 (飲水) の結果において、生存率及び腫瘍発生率
 は次亜塩素酸ナトリウムの濃度に関わらず、対象群と有意差は認められない。
 (IUCL ID 2000)

生殖毒性

ラットを用いた経口投与による 7 世代繁殖試験において親動物の生殖能力に対
 する影響、胎児に対する影響は見られない (IARC 1991) により区分外とし
 た。

特定標的臓器・全身毒性（単回暴露）

ミストの吸入によって咳込む事があり、気道刺激を起こす可能性（HSDB 2003）と記載されているが区分外とした。

特定標的臓器・全身毒性（反復暴露）

ラット及びマウスの経口投与試験が実施されているが、免疫学的パラメーターの軽微な変化以外に記述が無く（IUCL ID 2000）（RTECS 2008）何れも区分外

吸引性呼吸器有害性

情報なし。

1 2 ・環境衛生情報

水生環境急性有害性

甲殻類（ネコゼミジンコ属の一種）の 24h-EC50=0.005mg/L(塩素濃度 EU-RAR 2006)であることから、区分 1 とした。

水生環境慢性有害性

急性毒性が区分 1 であり、無機物のため急速分解はないと考えられることから区分 1 とした。

残留性・分解性

残留するが、有機物と反応して分解される。

土壌中の移動性

情報なし

生体蓄積性

情報なし

1 3 ・廃棄上の注意

下水へ流す。

汚染容器及び包装

容器は清浄してリサイクルする。

空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

1 4 ・輸送上の注意

国際規制情報

海上規制情報	情報なし
--------	------

UN No.	なし
--------	----

Proper Shipping Name	Hypochlorite Solution
----------------------	-----------------------

Class	分類外
-------	-----

Packing Group	分類外
Marine Pollutant	Not applicable
航空規制情報	ICAO/LATA の規定に従う。
UN No.	なし
Proper Shipping Name	Hypochlorite Solution
Class	不明
Packing Group	不明
国内規制	
陸上規制情報	該当なし
海上規制情報	該当なし
国連番号	なし
品名	希釈された次亜塩素酸ナトリウム（水溶液）
クラス	不明
容器等級	不明
海洋汚染物質	海洋生物に影響を与える。
航空規制情報	塩素系水溶液は積載出来ない
国連番号	なし
品名	希釈された次亜塩素酸塩
クラス	なし
等級	なし
特別の安全対策	特に定めない

15・適用法令

食品衛生法	第55条第一項の規定を条件（所在地：静岡県磐田市長森105、営業の種類：添加物製造業、許可条件：無記載、営業許可期限：令和11年2月末日）付きで静岡県西部保健所所長 木村雅芳の許可 令和5年11月13日付 第 S76202300378号を得ていることを以って根拠とし、当製品は添加物に属する。
労働安全衛生法	非該当
化学物質排出把握管理促進法（PRTR法）	非該当
毒物及び劇物取締法	非該当
消防法	非該当

海洋汚染防止法	海洋生物に影響を与える物質
船舶安全法	非該当
航空法	微腐食性物質

16・その他の情報 I 引用文献等

用途 殺菌剤、防カビ剤

安定型複合次亜塩素酸ナトリウムの特徴

大腸菌、緑膿菌、ブドウ球菌、サルモネラ菌等に有効である。
 ノロウイルス、インフルエンザウイルスにも有効である。
 ペット類の排泄物の消臭力に優れている。
 一般的な次亜塩素酸ナトリウムに比較して、塩素臭があまりしない。
 金属に対する腐食性は（アルミニウムを除く）殆どない。
 消臭能力に優れたものがある。

有効塩素の測定方法

電流滴定法

有効塩素がヨウ化カリウムと反応すると、ヨウ化カリウムは酸化してヨウ素を遊離する。この遊離したヨウ素を還元剤で滴定する。有効塩素（残留塩素）が含まれた検水中に電流滴定器の電極部を侵すと、遊離したヨウ素などの酸化性物質が含まれている場合には直流電流が流れる。この検水に還元剤を入れていくと、徐々に電流値が降下し、降下が見られなくなった点がこの滴定の終点であり、この滴定に要した還元剤の量から有効塩素（残留塩素）の濃度を計算する。尚、可溶性でんぶん液を滴下して濃紺色、黒色にすると終点の近づく前に溶液が透明に近くなり容易に目視できるので、測定誤差を縮小することが出来る。

参考文献

化学物質の危険・有害便覧	中央労働災害奉仕協会編 整理番号 085505-9
化学大辞典	共同出版
化学物質安全性データーブック	オーム社
化学物質管理促進法 PRTR-MSDS 対象物質	化学工業日報社
労働安全衛生法	化学工業日報社
Registry of Toxic Effects of Chemical Substances NIOSH	
GHS 分類結果データーベース	製品評価技術基盤機構 HP
GHS モデル MSDS 情報	安全情報センター HP
昭和化学株式会社 次亜塩素酸ナトリウム MSDS	HP

配合原料の MSDS (製品安全データシート)

各関連法規

※注意

製品安全データシートは、危険有害な化学製品について、安全な取り扱いを確保するための参考情報として取り扱う事業者に提供されるものです。取り扱う事業者はこれを参考として自らの責任において、個々の取り扱いなどの実態に応じた適切な処置を講ずることが必要であることを理解した上で、活用されるようお願いします。従って。本データシートそのものは安全の保証書ではありません。

17・改定項目

飲み込んだ場合の処置について、特になしに変更した。変更理由は急性経口毒性試験の結果から常識的範疇で飲み込むであろう容量では害といえる症状は発生しないと判断した。改定日・令和6年1月11日